



日本小児がん看護研究会も4年目を迎え、皆さまのお力により活動も充実しつつあります。今回のニュースレター第4号では、第3回日本小児がん看護研究会、第2回関東地方研修会など、平成17年度の活動報告と、第4回日本小児がん看護研究会などのお知らせをいたします。

\*\*\*\*\*

### 第4回 日本小児がん看護研究会のお知らせ

第4回日本小児がん看護研究会  
テーマ：小児がんをもつ子どもと家族へのケアの検証と創造  
日時：平成18年11月24日～25日  
会場：大阪国際会議場（グランキューブ大阪）  
会長：大阪府立母子保健総合医療センター 安達弘美看護師長  
演題募集：  
予定：平成18年5月中旬～6月30日（金）  
<http://www2.convention.co.jp/2005jspon-jsph/>

### せ

第4回日本小児がん看護研究会は、平成18年11月24・25日、グランキューブ大阪（大阪国際会議場）にて開催いたします。今回は、子どもの立場に立つべき看護師が、闘病生活を送る子どもたちの療養環境について考える機会にしたいと考えています。第1日目午後の教育講演には、イギリスで小児専門看護師として活動されている平田美佳先生をお招きし、「イギリスでの小児がん領域における小児専門看護師達の活動（仮題）」についてご講演をお願いしています。第2日目には、「環境とリラクゼーション」についてのご講演を、日本医科大学の高柳和江先生にお願いし、看護シンポジウム「子どもと家族の心の癒し」の中で、臨床のスタッフや治療を終えたゲストとともに、子どもたちが求める療養環境についてのディスカッションにつなげたいと考えています。

テーマを問わず多くの演題発表をお願いいたします。そして、活発な意見交換の場とできますよう多くの皆様の参加をお待ちしています

第4回日本小児がん看護研究会会長 安達 弘美

### 第3回 日本小児がん看護研究会の報告

第3回日本小児がん看護研究会は、小児がん学会の看護セッションの立場ではなく、日本小児がん学会・日本小児血液学会同時開催において、がんの子供を守る会含む、他の3団体と併行開催の形で行いました。多くの演題発表があり、活発なディスカッションが行われました。

森美智子（日本赤十字武蔵野短期大学）

- I. テーマ：  
小児がんをもつ子どもと家族へのケアの検証と創造
- II. 日時：平成17年11月25日（金）、26日（土）
- III. 会場：栃木県総合文化センター、宇都宮東武ホテルグランデ
- IV. 参加人数：約1300人（医師以外の看護職等約450人）
- IV. プログラム

11月25日

- 口演演題（15題） 苦痛緩和、子ども・家族の意思決定、日常生活の支援など
- ポスターセッション（18題） 苦痛緩和、日常生活の支援、チーム医療など

11月26日

- 合同メインシンポジウム 「トータルケアの心と実践」  
司会：細谷亮太氏（聖路加国際病院）、沖本由理氏（千葉県こども病院）
- 教育講演 「小児がんをもつ子どもと家族への緩和ケア」  
下稲葉かおり（オーストラリア モナッシュ大学）  
座長：森美智子

- シンポジウム 「子どもの望む苦痛緩和の実現をめざして」  
シンポジスト
  - ・ 医師より：岡敏明氏（札幌徳洲会病院）
  - ・ 看護師より：上坪成子氏（兵庫県立こども病院）
  - ・ 小児がん経験者より：大学生A氏
  - ・ 家族より：高橋和恵氏（星の会II）
  - ・ 家族会より：小松喜久子氏（日本大学医学部附属板橋病院・げんきの会）
- プレナリー：「治療終了後のケア」（2題）
- ポスターセッション（19題） 緩和ケア、子ども・家族の意思決定、活動報告など

\*\*\*\*\*

## 第2回 関東地方研修会の報告

第2回関東地方研修会は「小児がんの在宅ケア」をテーマに平成18年3月12日に開催されました。ご案内はメーリングリストと関東地方の病院施設のみであったにもかかわらず、北海道からの方も含め101名もの参加者がありました。

はじめに在宅ケアの看護総論として、聖路加国際病院訪問看護科ナースマネージャー 押川真喜子先生にご登壇いただきました。先生ご自身が小児の在宅ケアについて学んだ、と言われる事例をご紹介されつつ、在宅ケアは看護師個人の判断能力や技術力が重要である専門領域であることとし、在宅ケアのプロは優しさよりもまず技術、と強調されました。また看護師が理解しておくべき事として、「家族は在宅ターミナルを受け入れても、子どもが死ぬという事実を受け入れているわけではない」、など貴重なご意見をいただきました。御著書のなかでも「在宅で死ぬということ」、「自宅で迎える幸せな最期」(いずれも文芸春秋社)では、今回のご講演の中で引用された事例の他、小児の事例も多数とりあげていきますご紹介いただきました。

次に、埼玉県立小児医療センター副院長 血液腫瘍科医師 花田良二先生に、「小児がん診療22年の経験ー在宅医療の関所と希望」と題してご講演をいただきました。先生の豊富な経験を元に、小児がんの治療状況に関する最新データや埼玉県立医療センターのCVラインに関する感染・事故等の率など、ほとんど統計データが報告されていない貴重な数字をお示し頂きました。また、診療報酬改訂に関する在宅ケアの変更事項など資料をご呈示いただき、「専門家ではないのでつまらないでください」と言われながらも詳細な解説をいただきました。先にご講演をいただいた押川先生は在宅ケアの一つとして輸血等も実施されている事をお話されましたが、看護師のみで行う医療行為については法律的には難しい判断となることを指摘されました。また、高齢者の在宅ケアに焦点のあつた今回の改訂では、小児の在宅ケアへのメリットは少ないこと、在宅ケアに関する現状として制度が状況に追いついていないことを指摘され、こういった問題を現実的に事例毎に解決していくことが重要と示されました。

最期に「輝くいのちは光の中に、最後まで自分らしさを失わずに」と題して、在宅で最期をみとられた経験をもつ高野さんにお話いただきました。闘病生活の中で数々の厳しい体験をしながらも、いつも子どもが笑顔でいられるようにと「お出か

け」や「イベント」を楽しみにする生活を心がけられたことなど、厳しい治療をうける子どもにとって何が大切なのかをあらためて教えていただいたように思いました。つらい治療の途中でも、子どもには遊びと希望ある生活を、家族へも精神的な支援を、ひらかれた情報や選択肢も必要と、昔から言われていても、なかなか変わらない医療の課題が示されました。講演のはじめ、途中、そして最期に、亡くなられた七海ちゃんのスナップをスライドショーで見せていただきました。笑顔で家族に囲まれる姿に、会場では涙された方も多かったことと思います。ご講演の途中、高野さんご自身も涙がとまらない状態で、ご著書の一部を患者会の井上さんに代読してもらいながらお話する状態となりました。2年前の出来事とはいえ、そのような心理状態でも私どもの依頼を引き受けてくださったのは、今の医療や看護の在り方を、少しでも子ども・家族の立場から見直して欲しい、もっともっと良いものに変えて欲しい、という強い意思なのだと思えることができました。小児がんのターミナルケアやひいては小児医療全体に対する高野さんからの要望は、一人一人の看護師の努力はもとよりこのような会の総意を結集してゆく必要性も感じました。

今後も近畿小児がん研究会看護部門のみならずとも連携を強め、小児がん看護の質向上を目指した活動を展開してゆきたいと思えます。当日は強風のため、京葉線が減速運転になるなどハプニングもありましたが、10分遅れで開始した以外はすべて滞りなく会を進めることができました。ご出席の会員の皆様、役員、実行委員の皆様、ご協力ありがとうございました。重ねてお礼申し上げます。

第2回関東地方研修会 担当

東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科 丸 光恵  
千葉県こども病院 看護局 松岡真里

\*\*\*\*\*

## 第37回 SIOP (国際小児がん学会) の参加報告

2005年9月13日に出発し、シテイ・オブ・ホープ (ロスアンゼルス) 訪問および St. Jude 小児病院での2日間の研修を含む2週間のAコースとバンクーバーでの4日間のSIOP参加のBコース合わせて10名が参加しました。St. Judeでの研修は1日目が「St. Judeの外來ケアについて」、「BMT unitの看護」、「St. Judeにおける看護師の教育」、「International Outreach Program」について資料に基づいた講義を受け、活発な質疑の時間を持ちました。

研修第2日目は、病院内を見学した後、「St. Judeにお

ける看護研究の概要」のテーマでこれまで行われてきた研究や、現在続行中の研究、開発した instrument など解説して

いただきました。その後、パメラさんとの質疑応答、意見交換が行われました。また「小児病院におけるボランティア活動」についても担当者からお話を聞きました。

9月20日、Cochrane workshopに参加。

この組織がどのような経緯で設立されたか、どのような活動をしているか、どのようにこの活動に参加するか、などの前置きの後、レビューのためのプロトコルの作成、プロトコルの項目、内容レビューの方法などの講義があり、事例に基づいてレビューのための文献検索の方法を演習し、さらにメタアナリシスの方法論を学びました。

9月21日(水)～24日(土)

開会式から、SIOP 各セッションに参加しました。

看護部門は30カ国から220名の参加、日本からは在英の平田美佳さん、在米の小宮麻子さんを含め、12名の参加でした。SIOP/APON のジョイント・シンポジウム Advancing Nursing Practice—Nurse Practitioners: The Door to the Future in Pediatric Oncology と ICCPO-SIOP Nurse ジョイント・シンポジウム Information giving and Consent はとくに熱心な討議がなされ興味深く、日本のこれからの小児がん看護の進むべき方向を示唆するものでもありました。バンクーバーでの開催だったため、例年に比べてカナダ、アメリカからの参加者が多く、実践を中心にしてアメリカの制度や研究をおいけてきたヨーロッパと、研究の積み重ねと高度の実践家の教育および資格化を革新的に進めてきたアメリカとの出会いが第37回のSIOPを興味深いものとしていたと感じました。

\*\*\*\*\*

## 平成17年度役員からの報告

### 〔会員について〕

平成17年3月現在、一般会員数は164名、賛助会員はへるす出版(株)とキリンピール(株)です。

### 〔平成16年度役員会〕

平成16年度の役員会は、以下の日程と場所にて5回開催されました。

- 第1回 2004年5月15日(長野県看護大学)
- 第2回 2004年8月3日(AFLACペアレンツハウス)
- 第3回 2004年10月16日(都内会議室)
- 第4回 2004年11月20日(国立京都国際会館)
- 第5回 2005年2月19日(日本赤十字武蔵野短期大学)
- 第6回 2005年3月29日(日本赤十字武蔵野短期大学)

### 〔会則の変更について〕

役員会にて、下記の内容を会則に追加いたしました。

#### 第4章 会則

賛助会員 個人 1口 10,000円/年

法人 1口 50,000円/年

#### 第7章 委員会：本会に必要な委員会をおき、委員長をおく

#### 第11条 各委員会

- ① 研究会
- ② 研究会誌・編集委員会
- ③ 研修委員会

### 〔役員について〕

#### 役員

会長	梶山祥子
副会長	丸光恵・門倉美知子
	幹事
庶務	内田雅代
会計	平出礼子・上坪成子
研究会	小原美江・松岡真里
機関誌	小川純子・伊庭久江
広報	富岡晶子・前田留美
監事	森美智子・石橋朝紀子・石川福江

#### 委員会

研究委員	内田雅代・小原美江
編集委員	森美智子・野中淳子
研修委員	丸光恵・松岡真里



## 〔会計報告〕

### 〈一般会計 収入の部〉

項目	決算額(円)	内訳
1 会費		
会員年会費	650,000	130名(新入会65名)
賛助会員会費	70,000	へるす出版・キリンビール
寄付金・雑収入	186,390	
2.前年度繰越金	565,474	
計	1,471,864	

### 〈一般会計 支出の部〉

項目	決算額(円)	内訳
1.会議費	3,921	役員会お茶代
2.事業費	108,125	第1回関東地方研修会
3.研究会事業費	150,000	特別会計へ
4.事務費	78,952	通信費・人件費など
合計	340,998	

収入 1,471,864

支出 340,998

収支 1,130,866

### 〈特別会計 収入の部〉

項目	決算額(円)
第1回研究会繰越金	390,238
一般会計より	150,000
合計	540,238

### 〈特別会計 支出の部〉

項目	決算額(円)	収入
第2回研究会事業費	234,925	540,238
合計	234,925	支出 234,925
		収支 305,313

平成16年度会計は、監事森氏、石川氏により監査を受け、承認されたことをご報告いたします。



## 第4回 日本小児がん看護研究会のお知らせ

第4回日本小児がん看護研究会も、第22回小児がん学会看護セッションとして、平成18年〇月×日、大阪府立母子保健総合医療センターの血液腫瘍科病棟看護師長である安達弘美さんを会長に開催予定です。テーマにつきましては、現在検討中ですので、次回のニュースレターで詳細についてお知らせする予定です。

松本カンガルーの会(病気の子もと親を支える会)よりご寄付を頂きました。

## 第38回 SIOP(国際小児がん学会)へのお誘い

期日：2006年9月17日(日)～9月21日(木)

会場：ジュネーブ国際会議センター、スイス学会についての詳細は [www.siop.nl/siop2006](http://www.siop.nl/siop2006) をご覧ください。学会事務局へ直接参加申し込みができます。

下記の旅行日程を企画しておりますので、ご案内いたします。

### Aコース 英国の小児がん看護視察と学会参加

9月10日(日)成田発 11日(月)、12日(火)ロンドン、小児病院見学

13日(水)、14日(木)ニューキャッスル、小児がんのこどもの在宅ケア研修

17日(日)～21日(木)SIOP参加

22日(金)ジュネーブ発 23日(土)成田着

### Bコース 学会参加

9月17日(日)東京・大阪発、18日(月)～21日(木)学会参加

22日(金)ジュネーブ発 23日(土)東京・大阪着

お問い合わせは グロリアツアーリスト 渡邊敏彦氏

TEL03(5641)1225,1201 FAX:03(5641)1223

E-mail: [t.watanabe@gloria-turist.co.jp](mailto:t.watanabe@gloria-turist.co.jp)

## 〈平成17年度年会費納入のお願い〉

年会費の納入をお願いいたします。

年会費：5,000円を同封の郵便局の振込用紙にて納入していただきます。振込受領書をもって、領収といたします。納入期限は7月末です。

会費振込先：郵便振替口座  
00590-9-79689

口座名称 日本小児がん看護研究会

ご不明な点がございましたら、研究会事務局(TEL/FAX:0265-81-5186・5184)まで、お問い合わせください。

## 日本小児がん看護研究会機関誌編集係

〒260-8672 千葉市中央区亥鼻1-8-1

千葉大学看護学部 小児看護学教育研究分野

小川純子・伊庭久江

E-mail: [junogawa@faculty.chiba-u.jp](mailto:junogawa@faculty.chiba-u.jp)